

宮城県沿岸地域エクスカーションプログラムモニタリングツアー

参加者アンケート・意見交換会の意見概要

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

● 1. 概要

開催日	2023年1月30日（月）	開催場所	宮城県仙台市・松島町 ・東松島市・石巻市
タイトル	宮城県沿岸地域エクスカーションプログラムモニタリングツアー		
企画目的	<ul style="list-style-type: none">○ 2023年のG7、2025年の大阪・関西万博、各種MICE等により国内外から東北に訪れる方が生じる機会をとらえ、具体的なプロジェクトの企画・実施を通じて、地域の抱えている課題解決や国内外への情報発信につなげる。○ 具体的なプロジェクトとして、行政関係者や学者、研究者など知識層を主なターゲットとして想定した、宮城県の被災状況・復興の状況の理解を深めていただくとともに、防災に関する意識を高めるためのエクスカーションプログラムを検討。○ モニタリングツアーの実施により、以下効果を狙う。<ul style="list-style-type: none">・ 今回のモニタリングツアーのコース自体に関する評価・ブラッシュアップ・ 同じコースを体験した自治体、旅行会社、現地の事業者等が、エクスカーションプログラムを推進する際の課題等について意見交換することにより、官民のネットワークづくりと課題の共有		
実施内容	東北大出前授業（仙台駅付近会議室） – 仙台うみの杜水族館見学 – 松島離宮での食事 – 東松島語り部ツアーに参加 – 「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」見学 – 参加者による意見交換		
参加者	25名（うち、招待者12名、主団体3名、副代表団体6名、復興庁・復興局4名）、他事務局		

● 1. 概要

○ モニタリングツアーのコース自体に関する評価・ブラッシュアップを行うため、行程中、参加者に対してアンケート・意見交換を実施。

① プログラムの中心となる以下 4 か所について、5 段階評価でのアンケートを実施、また、改善点等を意見交換

- ・ 東北大学出前授業
- ・ 仙台うみの杜水族館
- ・ 東松島語り部ツアー
- ・ 震災遺構 仙台市立荒浜小学校

※ アンケートにおいては、個別の訪問箇所・プログラム自体の評価というよりは、コース組みに着目し、各コースのつながり等から、エクスカーションプログラムに組み込むことが適切かという視点で評価を実施。

※ 分析結果については、今回協力いただいた事業者に対してもフィードバックを実施予定。

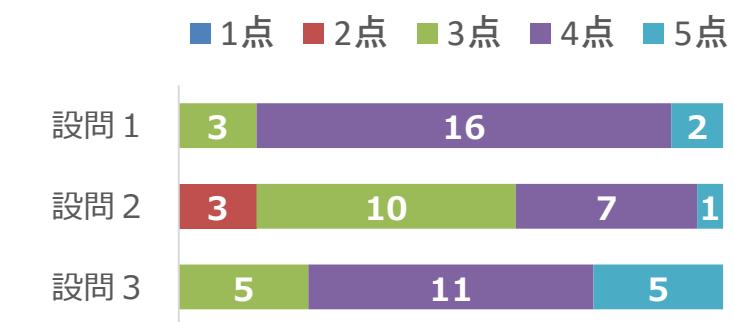
② また、行程全体について、宮城県の被災状況・復興の状況の理解を深めていただき、防災に関する意識を高められるプログラムとなっていたかといった観点から、改善点等を意見交換。

● 2. 個別プログラムに関する意見 (1) 東北大学出前授業

(1) 東北大学出前授業

- スタンプラー等を活用した防災意識の向上のプログラムについて、高い評価が得られた。
- その一方で、エクスカーションプログラムの対象として想定している知識者層向けに、小学生を主として対象とした現プログラムを再構築する必要があるという意見が得られた。

評価項目（5点満点）	
設問 1	授業により、防災に関する意識向上と具体的な防災知識を得ることができた
設問 2	政府機関や学者、研究者など知識層を主なターゲットとしたエクスカーションプログラムに組み込む内容として適切な授業内容であった
設問 3	上記を踏まえ、プログラム導入にふさわしいプログラム内容であるか



設問 1 関係：防災意識の醸成に関する意見

(防災意識の醸成に関する意見)

- 防災に関する意識向上のきっかけとして取組 자체は非常に素晴らしいと感じた。
- 大人でも知らないこと、知つておくべきことが学べる良い機会になる。全年代にとって分かりやすく勉強になる内容であった。
- 災害が多い日本の状況を知るために動画の活用は有効だと感じた。一部、作業や振り返りがあったので、より深い理解につながった。
- スタンプラーで自分の防災意識を客観的に知ることができてよかったです。自分事として考える機会となりとても良いと感じた。
- 防災の学びに関するスタンプの内容は正解がないものと思うので、ディスカッションするには大人でも有効と思う。
- 実際の外国人向けの授業実績、反応も紹介いただき、イメージがつかめた。海外向けの教育の取り組みについて興味深かったのもっと話を聞きたかった。

● 2. 個別プログラムに関する意見 (1) 東北大学出前授業

設問2 関係：エクスカーションプログラムとしてのプログラム内容に関する意見等

- 外国人、防災の学会といった高度な知識層は別だが、一般的の外国人には、出前授業でやられたようなわかりやすい子供向けの内容でも、何等かの気付
きは得られると思う。子供の頃から防災・減災を学ぶということに関する啓蒙にもなり、また、子供の頃から学んでいる日本、という観方をしてくれるよう思う。
- プログラム内容についてビジュアル化された映像やスタンプラリーは汎用性があり、他行政機関や防災関係の学者が訪れた際に参考になる内容。
- 海外でも実施可能な防災教育ツールとして紹介できれば良いと思った。
- 海外よりも国内の特に東南海地域の学校での展開を強化して、今後想定される東南海地震での津波被害者を減らすことに繋げられたら望ましい。

(改善点に関する意見等)

- 現プログラムは小学生対象であるため、ツアー対象となる知識層をターゲットとしたプログラム再構築の必要性を感じた。(多数)
- 海外から来られる方を想定すると、恐らく防災意識が高くないと思うので、もっと初步的な防災の知識を付けてもらう内容にするのがいいと思う。
- 海外から来られた方は東日本大震災をここまで知らないことも予想される。授業内、その手前で知識として知らせておく必要があると感じた。
- 津波の映像について流した方がいいように思った。子供向けなので、流さない方がよい、という判断と思うが、現実に起ったこととして、特に知識層をターゲットとした時には流した方がよいと思う。
- 出前授業で、これから見て回るスポットについて言及があつてもよかつたと思う。そうすると、実際に訪れた時に繋がりが感じられる。

その他全般に関する意見

(行程の順番に関する意見)

- 震災や防災の全体を聴いて、それから被災地を回る行程であったが、実際の被災地を見てから防災に関するお話を聞くと、自分事として捉えられると思う。実際の被災地を見た後だと、出前授業のスタンプラリーも全然違う結果になるのではないか。ワークショップ等は、遺構を観た後の方が効果的と思う。
- 映像については、ツアー移動中のバス内等で流すこともできると思う。スタンプもバス内でラリーしていくべきだ。
- 出前授業は東北でなくても出来るので、東北に来てもらうきっかけとして、県外でやることに重きを置き、直前の国際会議から東北に訪れるための導入とい
う位置づけで行ってもいいのでは、と感じた。

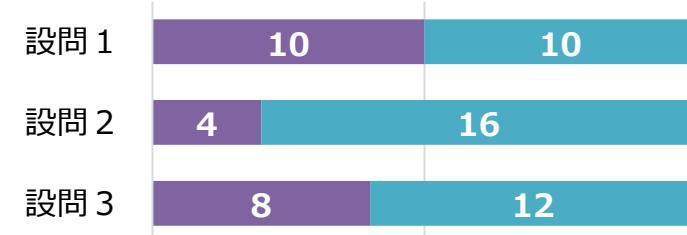
● 2. 個別プログラムに関する意見 (2) 仙台うみの杜水族館

(2) 仙台うみの杜水族館

- 館内ガイドも活用しながら、水族館という切り口で復興を発信する取組について高評価が得られ、プログラムの核となるコンテンツとして位置付けることが適当。
- エクスカーションプログラム全体の流れという点では、ツアーの最後に位置づけ、震災から復興という姿を発信することが考えられる。

評価項目（5点満点）

設問 1	宮城県沿岸地域、東松島市に訪れる前のプログラムとして、宮城県沿岸地域の水産文化や震災被害、漁業や藻場回復に向けた取組を知ることができた
設問 2	解説付きで館内を回ることにより、上記の理解がさらに深まった
設問 3	上記を踏まえ、エクスカーションプログラムに相応しいプログラム内容である



設問 1 関係：提供されているコンテンツ等に関する意見等

(コンテンツ等に関する評価)

- 「復興」視点で発信する水族館は、優位性があり素晴らしいと思った。
- 震災からの復興という面で水族館をイメージすることはあまり多くないと思うが、とても大切な取組などを行っていることを知り、もっと広まると良いと思った。
- エンターテインメントとして楽しめるだけでなく、アマモや牡蠣の養殖等震災との関連について学べる点が良かった。プログラムのストーリー性に寄与していた。
- 海の復興は進まないということがよくわかった。アマモ場再生のため「砂団子」を水槽の一部で実験している等、海・水を切り口にした復興や環境破壊への提言ができる強味を活かしてほしい。
- エリア分けが分かりやすく、地域の文化と一体となった見せ方は非常に良いと思う。
- 「心の復興」として水族館としての役割を明確にしてあり、それに即した形で展示物を見てとても良かった。
- 生き物を見て、心が癒されることも踏まえると、重くなりがちな震災復興のツアーに明るい部分が出てくると思う。

(改善点に関する意見)

- 水産文化や震災被害、漁行や藻場回復に向けた取組は、定量データも含めて資料等があると、一層理解が深まると思う。
- 震災被害状況を動画などで知ることで、より、藻場の復興に向けた取り組みが強調できると思った。
- アマモ以外にも東日本大震災からの生態系の復興について紹介できるテーマがあると良いと思いました。
- 津波による生態系の変化など、エリアの復興と生態系の復興が連携して見られると、更にすばらしいと思う。
- 三陸の産業クラスターである水産業の復興を、網羅的に紹介しても良いと感じた。
- ガイドによる説明や屋上見学は貴重であったが、一般客と異なる導線や特別体験ができるとなお良いと感じた。

● 2. 個別プログラムに関する意見 (2) 仙台うみの杜水族館

設問2関係：ガイディング等に関する意見

(ガイドに関する評価)

- 普段水族館に行くときは、解説文を読みながら進んでいくが、やはり解説していただきながらの方が頭にも入り、分かりやすいと思った。その場で質問ができるのも良い。
- 水族館は、ガイドを付けて見て回ると教育や学びに力点を置いたコンセプトや配置になっていることがわかり、新しい発見があった。普段は生き物を見るのに夢中になってしまふが、今回のようにガイドを付けて回ると水族館も新しい価値が出てくる。海外の方にこうした水族館の観方を教えるようなプログラムになつていってほしいと思う。
- うみの杜水族館の成り立ちや展示内容など、ただ行くだけでは得ることができない知識を得られることがエクスカーションとしての強みであると思う。
- 解説があることで、地域とのつながり、生態情報、アマモの回復に向けた取組など震災の影響等について、深く知ることができた。

(改善点等に関する意見)

- 予備知識のない参加者には、学びのプログラムや水族館の経緯について更に説明が必要かなと感じた。
- 説明頂くことでより理解が深まるので案内は必須であるが、案内できる方が何人いらっしゃるのか。
- 養殖されているかたの実際のご苦労の話等を聞くのも勉強になるのではないか。

その他全般に関する意見

(プログラムの順番に関する意見)

- プログラム全体の最後の出口で何をみせられるかが大事と思う。今回であれば、その出口としては、うみの杜水族館かもしれない。今度G7があるが、フランス人には牡蠣の養殖をみせる、といった見せ方が出来るように思う。そこから、「心の復興」の話へ繋げていける。
- 震災を体験された方の話と、そこから復興へという時系列でスポットを並べるとよいかと思う。荒浜小学校では、防災について今後に向けた話があり、水族館では復興に関する知識を学ぶ、という順序だとわかりやすい。最後に水族館で明るいアトラクション等で明るい気持ちで終わられるのでは、と思う。
- 少し気分が重たくなる震災遺構を観た後に水族館を回ると、震災から復興へというストーリーで見られると思う。

(プログラムの時間等に関する意見)

- 滞在時間が短い点は改善点。
- バス内で震災関連の話を集中的に聞く時間と館内案内の時間とに分けたことは良かった。館内案内のあと自由時間を少しこると良いと思う。

(募集時の案内に関する意見)

- 実際に来てみると学びも多く、楽しみながら理解することができる施設であると感じたが、ツアーテーマとの関連性が参加募集の際には理解しにくいので、参加者を募る際、水族館訪問の目的を明確に説明する必要を感じた。

● 2. 個別プログラムに関する意見 (3) 東松島語り部ツアー

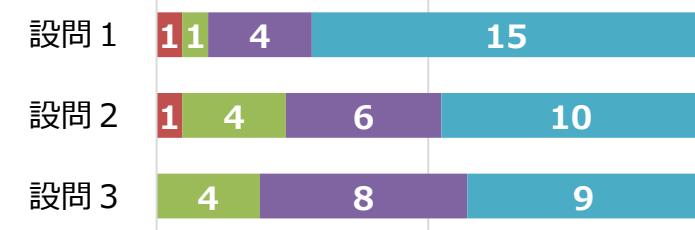
(3) 東松島語り部ツアー

- 語り部の説明により、震災の脅威をより強く感じることができる点は高評価であった。
- 一方で、海外からの訪日客を考えたときには、**先方が求める情報とのマッチング、通訳による熱量の違い等について要調整**である。

評価項目（5点満点）

設問 1	語り部による解説付きで被災地の被害状況、復興の現状を知ることにより、防災に関する意識向上が図られた
設問 2	午前中のプログラムとの相乗効果により、沿岸地域の復興の状況や防災に関する知識を更に深めることができた
設問 3	上記を踏まえ、エクスカーションプログラムに相応しいプログラム内容である

■ 1点 ■ 2点 ■ 3点 ■ 4点 ■ 5点



設問 1・2 関係：東松島の語り部ツアー

（東松島の語り部ツアーへの評価）

- **語り手の方の熱い気持ちが伝わってくる**内容で学習効果も高い。
- 被災地域の現状を実際に現地で感じることができ、かつ**語り部の説明で震災の脅威をより強く感じができる**プログラムだったと思う。
- 「語り部」という悲しい話をゆっくり情緒的に話すイメージだったが、活気があり、悲しいだけではなく**企業の取り組みや助かった例を具体的に今後に活かせるように語って頂き**、イメージが変わった。
- 震災の基本的な情報と合わせて、こうした語り部による案内があると、**少しでも震災を身近なものとして考えるきっかけとなる**のではないか。
- 語り部の話す内容、企業向けにBCP等もやられているということもあり、**被災地外の人への学習効果も高い内容**であった。
- 語り部ツアーは語り部の強い思いが伝わってくる内容だった。震災を学ぶのであれば、**デフォルメされていないリアルな震災の話を入れるのが筋**だと思うので、多少ショッキングな話もあったが、良い内容だったと思う。
- 震災の教訓を伝えるツアーは重要だと思う。**命を救うツアーとして修学旅行の誘致等を特に東南海地域の学校に展開したい。**

（改善点に関する意見）

- 震災の教訓を活かした**現在の訓練や企業の取組・設備等を体験できるプログラムがあると尚良い**と感じた。
- ガイドの話は貴重な体験談だと思われる。ただしこの話だけだと、「大変だったんだね」のみで終わってしまうように感じる。
- **屋外での説明時、聞きづらく**、マイク等があるとよかったです。
- 説明に当たって、**被災前後の写真か、施設概要等の資料提供があれば**、更に理解が進むものと考える。
- 外の説明は、**天候によっては集中して聞くことができない**など、反応が分かれると思った。

● 2. 個別プログラムに関する意見 (3) 東松島の語り部ツアー

設問1・2関係：海外からの訪問客を意識した場合の改善点等

- 語り部本人の思いが強く、初めて当地を訪問する方に向けては、震災情報をニュートラルに案内できた方がよいと感じた。
- 対象となるターゲットが日本人や津波に関連する国の人であると自分ごとと考えられるが、他の国などインバウンドを考えると、少し改善が必要と思う。
- こうしたガイドが英語で出来れば、海外の方にも震災の怖さが伝わるようになる。一方で、海外の方に震災体験の話はニーズがあるのか、という懸念がある。強い震災へのメッセージを海外の方が求めてやってくるのか、は冷静に見極める必要があろうと思う。
- 時間の関係もあるだろうが早口すぎる。伝えたいことの要点をしぼったほうが聞きやすい。訪日客を考えると、彼らに合った目線で押しつけとならないように話をしていくことが求められる。

- 東松島の語り部のお話は、臨場感のある内容だったのだが、この熱量をエクスカーションで訪れた外国人にどう伝えるのかが気になった。
- 多言語対応することで逐次通訳だと情報量が少なくなるのが、海外向けに利用する場合もったいないと思った。
- 語り部等の熱意やアリティをどう伝えるか、については、敢えて訳していない日本語の雰囲気、熱量を感じ取りたいという旅行者もいる。

- 今後、世界にも発信するのであれば、外国語表示の整備を検討した方がよい。QRコード読み取りも良いのではないか。

その他全般に関する意見

(周辺の震災伝承施設の活用に関する意見)

- 門脇小学校に入りたいところ。単なる津波ではなく、津波火災などの知識も得られるほか、数字的な資料もまとまっており、防災教育の効果としては相乗効果がある。時間的には+1.5時間くらい必要になるのでどうプランを設計するかが課題。
- 石巻市の伝承館について、厳かな雰囲気ではあるが、時間の調整はしやすいと思う。全体を伝承館で見せてから、個別のスポットへ、という活用の仕方があると思う。静かな雰囲気なので、外国人に受けるかは微妙なところ。
- 石巻市の伝承館はコンパクトに情報がまとまっているので、エクスカーションとしてガイドがついているのであれば、選択肢としては有りだと思う。ただ、見て回る、というより情報だけで完結してしまう感もある。出前授業といった形の方が体験等があるので、より記憶に残りやすいのではないか。

(BCP（事業継続計画）に関する意見)

- 今後はBCP対策を強みとする、とうかがった。こうした経験や遺構が生きてくると思うので、今後も継続していってほしいと感じた。
- 語り部については、企業向けの話が出来るので、被災地外の企業が学習する機会として良いものかと思う。
- BCP対策は企業ニーズが高まっているものの、当時をどう遡求していくかは今後の課題の一つであると考える。

● 2. 個別プログラムに関する意見 (4) 震災遺構 仙台市立荒浜小学校

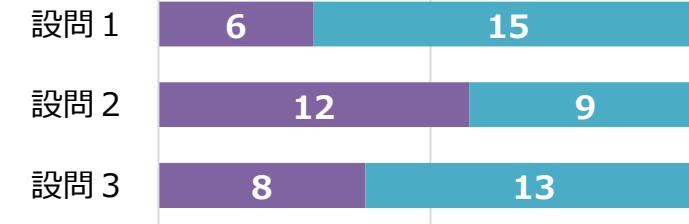
(4)震災遺構 仙台市立荒浜小学校

- 震災遺構である校舎そのものとともに、映像による当時の記録などもあり、訪問先としては高評価であった。また、英語字幕や通訳案内士による多言語対応についても、エクスカーションプログラムのコンテンツとして評価されるポイントである。
- 一方で、東松島と組み合わせた場合の行程組みや、フルーツパークあらはまなどの近隣施設の活用について、改善ポイントとして挙げられた。

評価項目（5点満点）

設問 1	被災の痕跡を残す校舎や被災直後の様子を示す展示物等を見学することにより、具体的な津波の脅威等を実感し、防災意識の向上につなげることができた
設問 2	震災遺構の見学により、本日のこれまでのプログラムで体験した以上の気づきが得られた
設問 3	上記を踏まえ、エクスカーションプログラムに相応しいプログラム内容である

■ 1点 ■ 2点 ■ 3点 ■ 4点 ■ 5点



設問 1、2 関係：施設内コンテンツに関する意見

（施設全体への評価）

- 語り部の解説に加えて、映像による当時の記録や、避難場所の再現、防災学習など様々なコンテンツが用意されており、非常に充実した内容だった。
- コンパクトに様々な「学び」が詰まった施設であると感じた。
- 校舎内部の見学により、実際の浸水位置を知ることができ、津波の脅威を実感できた。
- 展示物により多重防御の考え方が視覚的に理解できた。
- 震災発生時の対応や、その後減災に活かしている部分は、プログラムに相応しいと感じた。
- 荒浜小学校はインパクトがあり、外国の方に紹介するのにもよい施設と思う。

（映像解説等に関する意見）

- ビデオの内容がよい。津波の実験者の方の言葉は重みを感じ、意識を高めることが出来る内容であった。
- 映像や展示物が分かりやすい（英字幕も良かった）。映像をみてからの屋上で説明も分かりやすい。
- 英語字幕や通訳案内士によるガイドにより、外国人にも理解しやすいと思った。
- 映像プログラムの内容がとてもよかったです。施設もそうだが、特にあの映像だけでも観る価値がある。DCP対策を講じている団体や企業の防災担当には相当勉強になる内容なのではないか。

● 2. 個別プログラムに関する意見 (4) 震災遺構 仙台市立荒浜小学校

設問1、2関係：エクスカーションプログラムとしての改善点に関する意見

- 多重防衛と減災という点について、何か体験的コンテンツとして実体験できたとすると、より理解度が上がると感じた。
- 石巻地区との違いとして住民が戻らない（戻れない）という点を説明するのであれば、被災地での暮らしが失われたことをより伝えるような説明が必要かと感じた。
- 住民等が被災前の暮らし・思い出等を記載したプラスチックの旗が立てられているジオラマの説明が時間の都合から省略されそうになっていたことが残念であった。ジオラマの記載を個人個人が読んで、失われた情景を思い浮かべることが、震災を自分事としてとらえ、防災意識を強めることにつながると感じている。一方で、こうした日本語コンテンツを外国人向けにどう発信するかは課題。

その他全般に関する意見

(プログラムの順番に関する意見)

- ビジュアルに訴求すると記憶に定着しやすいので、ツアー序盤に組み入れると良いのではないか。
- 仙台市内ののみのツアーに組み入れるのは良いと思う。東松島のツアーと組合せをした際はつなぎをどう設計するのかを明確にすることが必要である。
- 東松島の語り部と荒浜小学校は内容が重複しているとは思うが、実際に生活されている方のお話があると厚みが出る。震災の事をあまり知らない、若しくは関心を持っていない方を想定した時、もう少しビジュアルを重視して、荒浜と東松島を切り分けることは出来るのではないか。
- 授業→語り部→震災遺構の順であることで、遺構をただ見るのではなく、現実味をおびた体験として感じることができた。

(近隣施設の訪問に関する意見)

- 荒浜地区にはフルーツパークあらはまなどもできており、復興が感じられる。時間ががあればフルーツパークあらはまに寄って、土地活用の実例を見てもらうと、大変なことがあったが、こんなにも良くなってきている、復興しているといった上昇気流を感じられる締め方になるのではと思う。
- 当日、後日の対応（災害当時）はよくわかった。この地域の今に至るまでの期間についての話を聞くことはできないのか。
- 過去の荒浜の生活・文化の継承という点は、荒浜小に伺うのであれば、仙台311メモリアルにもセットで伺うことも一案ではある。

● 3. 行程全体に関する意見

- 被災状況・復興の状況を理解するためのプログラムとして一定の評価。また、スルーガイドによって、プログラムに一貫性が生まれていたという意見が多数であった。
- 一方で、インバウンドを意識した場合には、参加者が観光消費を行う部分、食等の地域文化を楽しむ部分も組入れ、ゆとりをもつた行程を組む必要がある。また、視察順について、最後に復興の姿を感じられるプログラムを組み入れる方がよいとの意見があった。
- また、ターゲット層を明確化し、参加者のニーズに応じたプログラム設計を行うことも考えられる。

② 行程全体に関する意見

(プログラム全体に関する意見)

- 震災の脅威や復興のシンボル等を拝見することができるという点で記憶を伝えるプログラムとして良いと感じた。
- 基本的な知識等を学んでから現地を見学するコースであることで、効果的なプログラムになっていると感じた。

(参加者のニーズに関する意見)

- 参加者は、「終日震災について学びたい」のだろうか。終日学びたい人達だとしたら学びたい「テーマ」があるのではないか。
- 参加者がどのような属性の方なのかわかつていれば、その属性に合う話題の準備ができるが、今回のように対象が特定されないと一般的な震災の話題でおわってしまう。「どんなことを学びたいのか」を予め聞いて行程を検討しても良いと思う。

(プログラムの改善点に関する意見)

- 他のエクスカーションプログラムとの比較で選ばれるようになるには観光要素を増やす・食べる・買う要素を入れることも考える必要がある。
- プログラムの狙いに合った観光消費効果を念頭に置いたときに、フリータイムを設ける等、消費の機会を設けた方が良いと思う。
- 途中で地域の買い物が出来るスポットに寄る時間を取ってもいいように思う。その際に地域文化として、名産の説明を入れたりもできる。松島離宮も明治時代に要人が泊まっていた宿泊施設、といった話の膨らませ方がある。

(ガイドに関する意見)

- スルーガイドによりプログラムに一貫性が生まれた。(多数)
- 移動時間が長い分、移動中に実際の風景を見ながら震災当時の状況を補足で説明してもらうことで理解が深まった。
- 行先到着前の手引き、出発後は振り返り、その土地にまつわる話など大変勉強になった。また、ガイド内容が補助的なものであり、視察スポットの大筋には触れないところが良かった。
- スルーガイドの存在がツアーの深みを増したと思う。点と点の見学地をつなげることで「ツアー」とする意義を実証できたと思う。
- 今後、本数が増えていくとガイドの手配も難しくなると予想される。各スポットで専任ガイドの説明があるのであれば、「どうしてここに訪れるのか」程度の説明だけでも良いかも知れない。

● 3. 行程全体に関する意見

② 行程全体に関する意見

(追加すべきコンテンツに関する意見)

- 震災遺構の数々を見学できたことは非常によかったです。今後同じような災害が起きた時、それを未然に防ぐような取組、設備等の未来に向けた内容が観られるとより良いと感じた。
- 震災の教訓を生かし、次に震災が発生した際に被害を最小限にするために取組んでいる事等を学べるとさらに良いと感じた。
- 震災状況をほとんど知らない方々は現在の復興後の姿しか見ることができない。本格的にプログラム造成を検討する際には多言語での説明の標準化等を見据え、移動間に視察する映像コンテンツを作成(被災状況・施設の紹介・地域の物語等)するのも一案。
- 座学の時間に全体ストーリーを説明する場があつても良かったのではないか。東日本大震災の概要説明と全体行程及び本日学べる内容定時を最初に手厚くすることで内容が頭に入りやすいと思った。
- 震災・復興と関係あるかわからないが、堤防道路の作り方は他の国ではなかなか見られないものと思う。東北地域の10m級の堤防は、国内外を見て珍しいのではないか。防災意識が高くない海外の方は新鮮だと思うので、防災の知識として説明してあげた方がいいと思う。

(スケジュール感に関する意見)

- 移動が長いのか、全体の時間が長いと感じる。訪問先は2、3箇所ぐらいでよいのでは。(複数)
- 海外の方は、タイトな行程よりも、一つ一つをゆっくり観光しよう、という考え方のことが多い。
- 仙台港周辺を半日コースで周遊するのもありではないか。
- 昼間は東北を回ってもらって、勉強してもらい、夜は宿泊して食や地酒を楽しんでもらう、というツアーを確立できたら、かなりいいと思う。
- 食文化についても国際的に発信するために、宿泊を伴う形で設営し、温泉・地元の日本酒・牡蠣を始めとする海産物等も堪能して頂き、被災地を学ぶ旅の中での楽しむ要素も伝えられたら望ましい。
- 更に北部に足を延ばし1泊2日コースが沿岸で設計できるとよいのではないか。ただ震災を深く学ぶのみのコンセプトで2日続けるのは厳しいので、少し軽めのコンテンツが必要だと思う。

(視察順に関する意見)

- 出前授業(知識導入)→荒浜小(実感)→水族館(復興のシンボル)などの展開方法(順番)もありではないかと思った。
- 発災→復興→防災→復興 の順で、最後に復興の姿や自分にできる防災を考える順番(震災遺構→水族館→セミナー)等でもよいかと思った。
- 実際の震災について、知識を得た上で各所を視察できればよいと感じた。東松島の被災体験、荒浜小学校での被災から減災への取り組み、水族館での復興に関する取り組みを感じて頂き、最後はイルカパフォーマンスで締めるのも良いかと思料する。
- 行程の最後にフルーツパークあらはまを組み込むなど、ダークツーリズムではなくエニックスツーリズムの考え方でツアーを組むと良いのではないか。
- 普段、タイからのインバウンドを受け入れているが、話を聞くと、震災遺構ばかりになると悲しい気持ちになりがちだそうで、あまり人気がない傾向がある。震災遺構だけでなく、合間に他のコンテンツを挟んだり、最後に復興の話が出来る場所に連れて行き、最後に明るい方向性が見える流れとなっていると、インバウンド向けには良いように思う。国によって需要が異なるので、スポットの並びは検討した方がよい。

● 4. エクスカーションプログラムを推進する際の課題等に関する意見

(1) エクスカーションプログラム参加者のニーズ等に関する意見

(ニーズの明確化に関する意見)

- マネタイズしたいツアーなのか、文化を伝承する目的のツアーなのかで組み立て方が変わってくる。マネタイズするとなると商売として成り立つかを融資する側は見るとと思う。海外の方がわざわざ訪れて回りたいか、を深堀りする必要がある。海外の方に本当に求められているコンテンツなのか、検証した方がいいように思う。
- 海外の方が現在、震災教育的な内容のツアーを求めていない可能性はないか。国によっては津波の被害に関心はあると思うがエクスカーションプログラムを常態化するには、まず外国人のニーズを明確にする必要がある。
- 造成の課題は、顧客のニーズをきちんと把握できるかどうか。要望に合わせたスポットや施設を選べるか、が課題。ダーカツーリズムのポテンシャルはあると意見が出たが、何しろスポットが多い。東北全体で見たら、かなりの数になる。それをどう組み合わせたらよいか、という知識と知見を造成する側が持っているか、が重要。広島のように「原爆ドーム」という象徴的なものが無いので、参加者の要望を聞き出しながら、ご案内をしていく必要があると思う。
- 「震災復興」以外のテーマのものを用意する必要があると感じる。参加者が興味を持ってくれそうな、ここでしか見られないコンテンツ、スポットをまとめていく必要があるように思う。
- 海外から来た方が興味を持つのは、工芸品や歴史。外国人は流行りものよりも、伝統工芸といったものを好む傾向があるので、ショッピングにしても、工芸品がある場所を選んだ方が良い。やはり外国人と日本人の視点や好みは異なると思う。

(対象・シーズの明確化に関する意見)

- 今後、エクスカーションプログラムを作っていく、という観点で行くと、これをもっとブラッシュアップして、世界の知識層にどういった知識や話を持ち帰ってほしいのか、イメージを固めていく必要がある。
- 継続的にニーズのあるエリアに発信していくのがひとつの手。震災の話で言えば、次に大きな地震が起りそうな地域に対して、どうマーケティングしていくか。訪れたら、こういった学びがある、というのを発信できればよい。共通ニーズのあるエリアにどう発信していくか。国外であれば環太平洋の地域。
- 東南海地域の方は近いうちに地震があると予想されているので、観光に訪れてほしいという思いがある。観光して、経済を活性化させてほしいのもそうだが、防災や人命を守る意味でも復興の取組を繋げていきたい。
- 南海トラフ地震等で被害が予測されている地域の人々を守ろうと思った場合、国としてこうした地域に震災の教訓を伝えることを考えてほしい。この数年で取組が出来るかで後の死傷者数も変わってくると思う。また、修学旅行の旅行先として、防災学習のために国が推奨してもおかしい話ではない。
- 世界的にはダーカツーリズムで過去の戦争遺構が観光地化している。国内だと広島がそう。広島と同様に伝えるべきことはあるし、観光地化すれば、経済も付いてくる。特に東北は食もあり、地酒のラベルが日本一ある県。誘客できれば経済効果は見込めるはず。

- エクスカーションプログラムについて、商業的なことを考えると、外国からの参加者のニーズを明確にする必要がある。
- また、防災という観点から見た、震災の情報の発信先（国内だと東南海地域など）へのアプローチを考える必要がある。

● 4. エクスカーションプログラムを推進する際の課題等に関する意見

(2) プログラムの造成体制に関する意見

(地域での役割分担に関する意見)

- 地域とガイドを繋ぐランドオペレーターが重要。地域DMOや地域に根差した組織の中で、現地の方と信頼関係を築きながら調整できるようになるとよいと思う。
 - 地域のランドオペレーター、地域DMOとの連携をどのように進めるか、が課題である。その間に県の観光推進部も挟みながら、進めていければと思う。
 - 地域としてワンストップで出来る組織、個人が必要だと認識しているが、震災関係はなかなかやりにくい。地域DMOも観光コンテンツとして震災遺構を取り扱わないのだと思う。観光コンテンツに絡めて、であればやっていることもあるが、震災関連を単独でコンテンツとしてやるのが難しい。
 - 旅行会社が旅行商品としてコントロールするか、官民連携で造成していくのか、検討する必要がある。
- 地域を観光するツアーを依頼されたコンテンツの収集をする際に、いわゆる観光であれば問題ないが、今回のようなエクスカーション目的になると、語り部や施設等を探す際にどこへ連絡したらよいか、わからない時がある。顧客のニーズにマッチした人物の情報が無いことが多く、総合的なデータがほしいと思う。

(プログラムの発注者である行政に対する意見)

- 行政に求めることとして、ターゲットの地域をどう想定しているか、を聞きたい。仙台市ならば、台湾に注力しているので、台湾の旅行者向け、のような事前情報があると助かる。旅行会社としても、プログラムを作る以上、きちんと繰り返し売っていきたい。また、事前情報の部分で、仕様書がしっかり書いてあると助かる。あとは告知。費用的な意味でも、行政側からの継続的な告知がほしい。

(県を超えた広域連携に関する意見)

- 県としてだけでなく、被災3県が復興というキーワードで連携できるかどうかがカギ。参考になるのは、四国のお遍路さん。四国4県が文化的価値やシナリオを共有して取り組んでいる。東北であれば、仙台にフォーカスしてもいいし、岩手のリアス式にフォーカスしてもいい。それぞれの特徴を把握して発信できる形があるとよい。

- 
- 地域とガイドを繋ぐランドオペレーターが重要。また、地域の語り部やコンテンツの情報集約と整理が必要。
 - 民間旅行会社や地域DMOが震災関連のコンテンツを単体で観光プログラム化することは難しい部分がある。こうした観点では、行政も連携した対応が必要となる。
 - インバウンド対応という点では、単独の県だけでなく、被災3県にまたがった広域連携・情報発信も重要。

● 4. エクスカーションプログラムを推進する際の課題等に関する意見

(3) ガイドに関する課題等に関する意見

(ガイドの質の担保・均質化)

- ガイドの質の均質化が必要。特に海外の方に対して、ファクトとパッショントどう伝えるか、ガイドのレベルの標準化・多言語化育成が急務と思う。
- 地域のガイディングについては、質を維持しつつも広域に対応できるかが課題。
- 現在の語り部の多くは、それぞれの想いの下で話をしているので、均質化が難しい。現在でも教育旅行で多数の子供たちが来ると対応に追われることがある。インバウンドも含め、誘客していく上でガイドの育成を県、市が連携して進めていく必要があると認識している。
- 語り部の方々も観光とは違った感情で動いていることが多いので、観光としてツアーにどう組み込むかが課題。

(スルーガイドとスポットガイドの連携等)

- スpotトに到着する前に聞くべきポイント、見るべきポイントを示しておくことで、spotのガイドの話も活きてくる。spotとスルーガイドの連携は必須。
- 災害関連の話となると、スルーガイドと現地ガイドの話も実情が異なるので、話のズレが出やすい。
- プログラムを通して、ガイドの力量に左右されると思われるが、語り部であれば語り部を主役にして、サポートする必要があるだろうし、知識だけではなく、コンテンツをより理解やすくなるよう立ち回りが求められる。こうしたガイドの育成が求められると感じる。

(ガイドの育成)

- 課題としてはガイドの不足が言わされている。特にここ数年はコロナ禍で受入が出来ていないので、勉強会や講習で改めて教育が必要と思う。
- ガイドの育成については、最初は行政の手を借りないと難しい。研修や研修先の滞在費、その間の賃金などコストが大きい。
- まずはプロのガイドにしっかりお金を払うのが大事。お金をしっかりと貢することで、ガイドさんのモチベーションにもなり、顧客のニーズに応えようと動いてくれる。
- 震災復興のガイドは、ボランティアでやっている方もおり、金銭を貢ってガイドを育成しようという形をとると対立してしまう恐れもある。ただし、将来を見越すと有償でやらないとガイドさんも続かないし、語り部の育成も出来ないと思う。

(その他ガイド不足への対応等)

- 海外向けの多言語化対応も、QRコードで情報を入手してもらう等、ガイドは無くとも情報が得られる形にしておくというのも1つの手。
- ガイディングの内容をまとめたテキストのようなものがあれば、汎用性をもって対応できる。
- 行政側としても、ガイドや旅行会社に自身が持っている情報をフィードバックできれば、現地目線でより良いガイドになる可能性がある。

(インバウンド対応)

- 多言語対応や各国に特化したガイド内容が組めるとより良いと思う（たとえばタイでは洪水が多いので洪水や浸水の内容を多くするなど）。
- 国によっては悲しい話が多くない方が好まれる。視察先で悲しい話が多くなった時はガイドの方の話は明るいものを多くしてバランスを取るなど工夫が必要。
- 欧米の知識層を考えると、わからない内容はどんどん聞いてくる。通訳だけだと伝えられない部分に関して、スルーガイドが対応できるかどうかが重要。

- ガイドについては、以下のような点が課題。こうした課題の解決を図るために地域の各プレイヤーや当協議会の役割は何か。
ガイドの質の担保・均質化／ガイドの育成・教育の不足／スルーガイドとスポットガイドの連携／インバウンドに特化した対応等

● 4. エクスカーションプログラムを推進する際の課題等に関する意見

(4) 今後のプログラム造成等に関する意見

(G7を見越したエクスカーションプログラムに関する意見)

- G7のエクスカーションプログラムについて、市としては、震災の時に受けた支援について感謝を打ち出す、そういった内容を発信するというテーマがあり、海外との交流というストーリー付けが出来たらと考えている。
- G7の科学技術大臣会合との関係では、ドローン技術は防災とも絡みがあるので、組み込んで話ができるかと思う。基本的に震災復興を発信しつつ、減災・防災に対して仙台が取り組んできたことを伝えたいと思う。具体的なコンテンツはこれから検討したい。
- 仙台でコンベンションが行われた際に何故、仙台でやるのかと問われたら答えにくい部分がある。仙台としては、被災をして、防災枠組に近い実践をしている、と打ち出していくにはデステイネーションとして需要が出るよう思う。

(エクスカーションプログラムの発展に関する意見)

- エクスカーションプログラムについては、研修や教育旅行に転用できる形で造成して、顧客に合わせてアレンジしていけばよいかと思う。
- エクスカーションプログラムの先には、観光ツアーがあると思う。やはり地域にお金をどう落としてもらうかを考えることも必要。
- エクスカーションプログラムは、海外の学会の方、ビジネスの方と様々な利用者があると思うが、その属性毎にプログラム内容を変えるのは現実的ではないので、ある程度の汎用性が必要になる。

- 今回取り組んだエクスカーションプログラムの直近の出口として考えられるのは、G7科学技術大臣会合での活用。
- 意見交換等で広がったネットワークも活用して、今回のプログラム実施で得られた知見等について、仙台市とも共有の上、魅力あるプログラム造成に引き続き取り組んでいく必要。